

1 はじめに

本校では、教育目標を「自ら学び、心豊かでたくましい生徒の育成」とし、「まなびあいまがきあい たかめあい (TOYOURA3i)」の重点目標のもと、「自ら学び考える生徒」「思いやりの心を持ち、協力し合う生徒」「根気よくやりとげる生徒」を目指す生徒像として、日々の教育活動に取り組んでいる。

中学校学習指導要領(平成29年3月告示)第4章 総合的な学習の時間 第1 目標(2)に「実社会や実生活の中から問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・実現することができるようにする」とある。第2学年では「地域と私たちの関係に気づこう ～働く意義を考えよう～」というテーマで、職場体験学習を通し、自分自身の生き方について考えていく活動を行っている。生徒が職場体験を通して実社会で体験したことを整理・分析したり、まとめたりすることで自らの課題を見つけ、解決に向けて主体的に活動できる生徒が育成できると考えた。

2 指導案

第2学年 総合的な学習の時間指導案

(1) 単元名 働く意義を考えよう

(2) 単元の概要

①目標

職場体験活動を位置づけた「働くということ」について考える学習活動を通して、自分自身のよさや課題を理解するとともに、働く人の様々な思いや考え方を感じ取り、将来の働く自分を見通し、その成果を生活の中で生かそうとする。

②育てようとする資質や能力及び態度

ア 将来設計を考える中で、生徒が自分なりの課題を設定し、主体的に課題を解決しようとする。

イ 職場体験学習を通して勤労観や職業観を深め、自分の将来や進路に明るい展望を持ち、自分の生き方について考える。

ウ 体験活動のまとめや発表活動において、自分の考えを分かりやすく聞き手に伝え、他者の発表内容から自分の考えを更に深める。

エ 活動を通して学習したことを生かし、自分の生活を改善していこうとする。

(3) 単元について

本単元は、「職場体験学習」を学習の中心的な活動として、働くことの意義を知ることやこれからの生き方を考えさせることをねらいとしている。第1学年では、「身近な職業について知ろう」において、家族や地域の人々に職業についてのインタビュー調査を行い、その調査内容を基にして職業新聞の制作を行った。まとめたことを発表し合うことで、職業や地域についての関心を高めることができた。その実践を踏まえ、第2学年では、職場体験学習に向けて、体験を行う職場について調べ学習を行ったり、職場との事前打合を

行ったりすることで、職場体験学習への関心意欲を高め、一人一人が目的意識をもち主体的に体験学習に取り組めるようにしたいと考えた。また、体験したことを分かりやすくまとめたり、発表したりすることで、コミュニケーション能力を高めるとともに、発表後に行う質疑応答や意見交換を通じて、学んだことを共有したり、深く考えたりできるようにしたい。

問題点について話し合い、課題を発見し、対策を考える活動を通して、生徒一人一人が将来について主体的に考えるようになり、将来設計能力を高めることができると思う。

アンケート調査結果〔回答 男子49名、女子32名 計81名、令和元年9月2日実施〕

- 1 他人とコミュニケーションをとることが得意である。
 - ・得意 17名 ・やや得意 23名 ・やや苦手 28名 ・苦手 6名 ・わからない 7名
- 2 自分の思いや考えを表現することができる。
 - ・できる 37名 ・できない 9名 ・どちらともいえない 35名
- 3 自分の夢を他人に語ったことがある。
 - ・ある 47人 ・ない 20名 ・わからない 14名

本校2年生は男子50名、女子33名、合計83名である。本学年の生徒は、真面目で素直な生徒が多く、指示されたことはきちんとやり遂げようと行動することができる。また、話し合い活動に積極的に取り組み、思いや考えを互いに伝え合うことができる生徒も多くいる。アンケートの結果から、他人とコミュニケーションをとることが苦手と答えた生徒が多くいる。また、自分の思いや考えを表現することが上手にできないと考えている生徒も少なくない。そこで、道徳の授業を中心に自分の思いや考えを、誰にでも伝えるようにグループ編成を工夫し、コミュニケーション能力の向上に努めている。

職場体験学習においては、そこで働く人々の思いや姿に直接触れ、自分なりの職業観がもてるよう、事前準備をしっかりと行い、理想と現実の違いに気付かせたい。また、発表活動においては、意見交換を通して、自分の考えを深めるとともに、自分の生き方や夢を語ることによって自己有用感を高め、自信をつけさせたい。さらに、単元全体を通して、自分の将来の生き方について明るい展望をもって取り組む姿勢を育ませ、積極的に社会に参画する態度を育成していきたい。

(4) 単元の評価規準

観点	ア 学習方法に関すること	イ 自分自身に関すること	ウ 他者や社会に関すること
評価規準	①将来の働く姿を基に、今の自分に求められていることについて課題をもっている。 ②体験活動で生徒自身が感じたことや分かったことを考察している。	①将来の夢や希望に向かうための目標や、その達成に必要なことを課題に設定している。 ②社会の中で自分がどう在りたいか、どう関わっていききたいか、自分なりに考えている。	①職場体験活動を通して積極的にコミュニケーションを図っている。 ②自分の考えを積極的にアピールしたり、他者の考えを受け入れたりしている。

(5) 指導と評価の計画（45時間扱い）

第1次	職業について知ろう	5時間
第2次	職場体験活動の準備をしよう	10時間
第3次	職場体験活動を実施しよう	8時間

第4次 職場体験活動の体験をまとめ発表しよう 12時間

月	時	主な学習活動	評価規準及び主な評価方法	
6	1	お礼状を書こう	ア②	観察
	2	・礼状の下書きを書く ・礼状を清書する	ウ②	礼状
7	3	職場体験活動のまとめをしよう	ア①	観察
	4	・個人でまとめをする	イ①	トライアルハンドブック
9	5			発表資料
	6			
本時	7	中間発表会にむけて準備しよう	ア②	発表資料
	8	・資料を完成させる	イ②	観察
	9	中間発表会	ウ②	発表資料
		・クラス毎に発表会	ア②	トライアルハンドブック

第5次 職場体験活動を個人研究に生かそう 10時間

(6) 研究主題に迫る手立て

「働くことについて」をキーワードに話し合い活動の場を設ける。様々な異なる視点からの意見交換や情報の比較、関連づけを基に個人課題を設定する。個人課題は地域のことや自分の将来に関わることを中心に設定することで、主体的に取り組めるようにする。

(7) 本時の指導

①目標

中間発表会に向けて、職場体験学習を通して学んだことを、分かりやすく資料にまとめることができる。

②準備・資料

総合ファイル、トライアルハンドブック、発表用資料

③展開

学習内容・活動	支援の手立てと評価
	*学習意欲を高める手立て ■自尊感情を高める手立て (評)評価
1 本時の学習課題をとらえる。 中間発表会に向けて 分かりやすい資料を作成しよう！	・中間発表会に向けて、生徒全員が発表資料が完成できるようにする。 *前時までの活動を賞賛することで、学習意欲の喚起を図る。
2 発表資料を作成する。 ・個人で資料を作成する。 ・友人と相談しながら、資料の作成を行う。 ・資料が完成した生徒から、プレ発表会を行い意見交換する。	・クラスの活動班毎に、発表資料についての話し合い活動を行い、互いのよいところについて意見交換をする。 *資料作成に行き詰まってしまった生徒には、個別で支援を行う。 ■職場体験学習を通して学んだことに気づけるよう、

3 本時のまとめをし、次時の活動内容を知る。	生徒に言葉かけを行う。 (評) 職場体験学習で学んだことを、分かりやすく資料にまとめることができたか。 (発表資料) ・ 本時の目標の評価を踏まえて、資料作成のポイントを助言し、次時の中間発表会に意欲をもたせる。 ■ 本時の生徒の取組を賞賛し、中間発表会に向けて意欲付けを行う。
-------------------------------	---

3 資料（実践事例、写真等）

（１）職場体験学習の様子



《はっぴいべる》



《ドッグサロンアウェイク》



《運平堂》

（２）職場体験学習発表会の様子



《発表会の様子》



《司会とタイムキーパー》



《パワーポイントで発表》

4 成果と課題

（１）成果について

- ・ クラスの活動班ごとにプレ発表会を行うことで、自分が体験した職業と違う職種について知ることができた。
- ・ 職場体験学習の全ての活動を通して、自らの課題を見つけ、解決に向けて主体的に活動していく資質や能力の育成を図ることができた。

（２）課題について

- ・ 体験を通して学んだことを実生活に生かせるような事後指導の在り方。